

募集と確保、レベルアップ、離職率低下など

人材問題についてセミナー開催

ホスピタリティ教育研究会

ホスピタリティ教育研究会(石原健会長)は3日、会員対象セミナー「これからのホテル・旅館の人材問題について」を東京都中野区の本ホテルスクール新校舎で開催した。約70人が参加した。

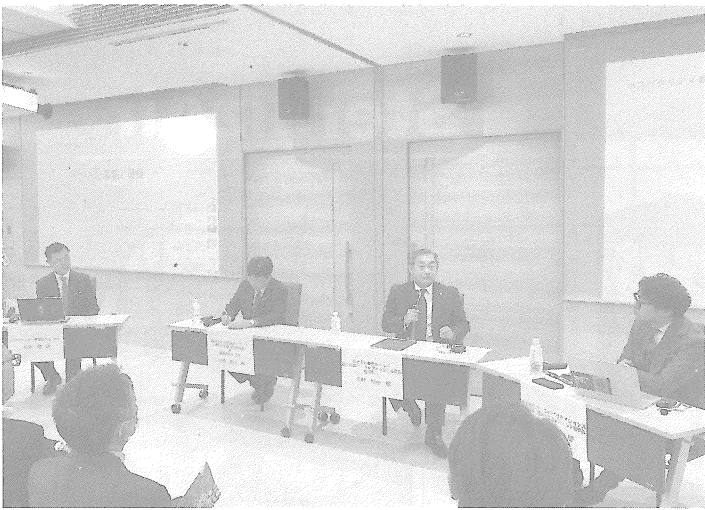
同研究会は、かつて日本ホテル教育センターが2019年まで行っていた「ホテル産業経営塾」の卒業生418人、同「MICRE塾」の卒業生102人が所属するOB・OG会組織。

パネリストとして佐野智之氏(当間高原リゾート・上席執行役員統括総

支配人兼事業統括室室長)と、志村恒治氏(東急ホテルズ執行役員 ザ・キャピトルホテル東急総支配人)、義田真平氏(オータパブリケーションズ執行役員 週刊ホテルレストラン編集長)の3氏が登壇。同研究会会長の石原健氏(ホスピタリティデザイン横浜代表取締役)がファシリテーターを務めた。

「日本一離職率の低いホテル」と称されることもある当間高原リゾートベルナティオ(新潟県十日町市)の佐野総支配人は、採用活動について次のように話した。

「豪雪地帯のリゾートホテルのだが、特別なことは行っていない。新卒の採用面接に来る子たちにはベルナティオを選んだ理由を聞いてみたところ、①家族旅行で訪れたときのスタッフの雰囲気がとてもよかったから②ベルナティオに勤めている先輩から良い職場だと



セミナーの様子。左から順に石原、佐野、志村、義田の各氏

納得した上で入社してくるものだ」と紹介した。週刊ホテルレストランの義田編集長は「当社ではホテルの人材募集サイトを運営しているが、情報の羅列だけでは人は集まらない。魅力はどこなのか、どんな人が働いているのか等が伝わる見せ方ができているホテルは人材確保に困っていない。採用人事の仕事が数々の確保だった時代は終わった。人材を人財として扱う意識がなければ、人手不足を解消することはできない」などと指摘した。

【江口英一】